

令和2年度 第2回池田市総合教育会議 議事録

日 時：令和3年3月23日（火）午後3時30分～午後4時30分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：富田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員
＜事務局＞

17人

傍聴者：0人

1. 開会の挨拶

＜富田市長＞

- ・本日は、前回から約9か月が経ったが、今年度2回目の総合教育会議としてこの場を設けた。前回は、新型コロナウイルス感染症に係る学校園の対応を議題として、4月に発令された緊急事態宣言下の休校等に係る対応や第2波・第3波に備えての対応について、校外学習のあり方も含めて議論した。
- ・先日の施政方針演説でも触れたが、今年度は新型コロナウイルス感染症との闘いの年でもあった。各学校園においても、日ごろの感染対策はもとより、授業スケジュールの調整や子どもたちのケア等、例年にも増して気が張り詰める1年であったことかと推測する。
- ・来年度の1年間というのは、特に、市民のみなさまへのワクチン接種にほぼ費やされるであろうと覚悟しており、コロナにおける情勢というのはまだまだという中でまた次の年を迎えると思っているので、そういった未来も配慮しながら忌憚ない意見交換をしたいと思っているので、よろしく願います。

2. 議事

(1) 学校教育に関して

＜事務局から説明＞

(コロナ禍における学校教育の推進について)

- ・活動内容については、国・府の活動指標をもとに、歌唱、グループ活動、密となる運動などに制限をかけながら活動を進めた。ただし、水泳指導に関しては、更衣室が密になる状況や一定期間で検診の中に内科検診が収まらないような状況が考えられたため、中止となった。
- ・大阪モデルレッドの期間は、様々な制約があったため、外部からの入校等も制限し、校外学習の禁止や、参観等の制約を行った。
- ・子どもたちの学習の内容については未履修という状況はなく、ヒアリング等により、教科書に載っている内容は今年度中に終わることを確認している。ただ

し、標準時数（1015時間）については、授業確保に努めたが、時数には及んでいない。

- ・池田市で大切にしている公開授業研究会等は、その時々々の感染状況に合わせて、外部の来訪者を限定しながら進めた。ただし、石橋中学校は、臨時休校期間に重なったため、実施できなかった。
- ・学校行事については、すべて感染対策のもとで実施し、例年と比べ時間を短縮し、保護者の見学の制限などを行った。それに伴い、運動会、学習発表会、文化祭等も平日開催に変えた。
- ・宿泊行事については、小学校、中学校の自然学舎、修学旅行は実施したが、小学6年生の臨海学舎や中学2年生の宿泊行事は日帰りに変更した。幼稚園においても工夫し、さくら幼稚園では宿泊保育を実施できたが、あおぞら幼稚園では宿泊を伴わない時間を延長した特別保育として進めた。臨時休校期間にあたった呉服小学校の自然学舎は、その段階では中止となったが、3月11日に同じ和歌山県紀北の施設において、日帰りで同等の体験を行った。
- ・臨時休校については、各校それぞれ対策を行った結果だと思うが、小学校で2校、中学校で2校の休校が生じた。いずれも家庭内感染によるもので、やむを得ずお子さんが感染された状況で、学校の中で子どもから子どもへというような感染は見つかっていない。

（「池田市立（幼稚園型）認定こども園」について）

- ・さくら・あおぞら両幼稚園は、幼稚園型であるが、認定こども園としてこの4月に新たに開園する。2年前に幼保連携型の認定こども園として開園したなかよしこども園、ひかりこども園と同様、認定こども園として開園するが、さくらとあおぞらの2園については、幼稚園教育をベースとした幼児教育と保育を一体的に提供する施設として、これまでは1号対応の2年保育であったところに、3歳児、親御さんが就労されている2号認定のお子さんを受け入れた3年保育として、新たにスタートを切る。
- ・認定こども園となるが、園の名称は「池田市立認定こども園さくら幼稚園」ならびに「池田市立認定こども園あおぞら幼稚園」とし、教育委員会にて所管する。
- ・こども園化に伴い、開園時間は朝の7時から夜の7時までとなり、保育時間がこれまでと比べ大きく延長される。あわせて、2号認定の子どもたちの受け入れにより土曜日も開園するため、勤務体制の確保が必要であった。2園全体でのクラス数も増えるため、今回、新規の幼稚園教諭の採用をはじめ、保育士等の会計年度職員の人員を確保し、4月からの開園に向けた最終準備として調整を行っている。

- この4月に入園予定の園児数も決まってきた。1号認定のさくら幼稚園の5歳児については、幼稚園型認定こども園条例における定員について、経過措置をとる。さくら幼稚園において、これから5歳児となるいまの4歳児は、現在、35名が在籍している。そのうち、33名が1号認定、2名は2号認定ということになったため、1号としては33名が進級することになるが、条例での定員枠は20名である。条例上では13名が定員を超えることとなるが、経過措置をとり、現在在園している35名はそのまま進級する。
- 給食については、これまで基本的に週1回程度であったが、これからは毎日小・中学校に給食を提供している給食センターから配送いただく。2号認定の園児には、土曜日・長期休業期間もお弁当が必要となるが、これについては外部業者によるお弁当搬入という形をとる。
- 通園バスは幼児保育の無償化の対象とはならないため、受益者負担ということで月額3,000円をいただいて、継続する。
- 預かり保育は、これまでどおりではあるものの、開園時間の延長に伴って預かり時間も延長する。
- 幼児教育については、教育長からも教育方針の中でお話があったとおり、教育の充実に向けた令和3年度の3本柱の1つであるため、幼稚園型認定こども園の安定的な運営について、また、幼児教育の推進について、確実に進めていきたい。

(池田市GIGAスクールの進捗状況について)

- 国から示された、1人1台端末と高速大容量のネットワークを一体的に整備するというGIGAスクール構想は、当初、複数年かけて3学年ずつ整備するよう示されていたが、新型コロナウイルス感染症の対策として学びの継続にはICT環境の早期実現が必要ではないかという国の方針も受け、本市においても、令和2年度中に1人1台タブレットとネットワーク敷設を実現すべく進めてきた。
- 整備の内容については、まず普通教室の壁に無線LANのアクセスポイントを取り付け、40人が一斉にネットワークにつながっても非常に快適にストレスなくネットをもとにした授業が進められるような環境を整えている。また、体育館にもアクセスポイントを付け、体育の授業だけではなく、災害時に避難所になった際に一瞬にして無料開放できるよう、「00000 JAPAN (ファイブゼロジャパン)」という規格にも則って、避難所の有効活用としても、このアクセスポイントを活用していきたいと考えている。また、タブレットを使うと当然充電も必要となるので、放課後等に安全にタブレットを収納し保管できるように、鍵付きの充電保管庫も普通教室に1台設置している。

- ・小学校の低学年用のタブレットは、キーボードがなく、ケースも非常に分厚い仕様になっている。高学年及び中学生にはタイピングでの文字入力も必要なので、ケース一体型でキーボードも付けたタブレットを整備している。年内に整備は完了し、いまはフルに活用している。
- ・ICT環境の整備により、一斉学習においては、今までは先生方が40名の子どもたちに対して一方的に知識を教え込むという授業スタイルであったが、子どもたちの反応も見ながら、理解の度合いも見ながら進めるという双方向型の授業が可能になった。個別学習では、それぞれの興味・関心、習熟度に基づいて、それぞれのペースで授業を進め、学びを進めることができる環境が実現した。共同学習においては、1人1人の考え方をリアルタイムで自瞬時に大型の電子黒板に写し出すことができるため、そこから気づきを拾ったり、学びを深めたりという活動が可能になった。今後、家庭学習等にもこのICT環境を十分に使いながら、学びを継続させるという部分での研究もこれから検討していきたいと考えている。

(2) 社会教育に関して

<事務局から説明>

(東京2020オリンピック聖火リレーについて)

- ・2021年に延期となりましたオリンピック聖火リレーが、3月25日に福島県をスタートする。121日間かけて7月23日(金曜日)までに日本全国47都道府県859市町村を回る予定で、大阪府は4月の13日・14日の開催を予定しており、池田市は4月の13日が実施日となっている。
- ・聖火リレーは単に走るだけではなく、スポンサー企業の車両等もたくさん走るため、数百メートルの規模の隊列となる予定である。
- ・池田市の聖火リレーのコースとしては、ダイハツ工業の西門を15時9分にスタートし、市立池田小学校に15時52分に到着する予定で、2.6キロ、12区間となっている。ゴールには、池田小学校のグラウンドで聖火をランタンに収める「ミニセレブレーション」を開催する。
- ・聖火リレーのランナーについては、池田市民3名にスポンサー枠9名の12名が走る予定である。聖火リレーの最終区間では、聖火ランナーの後方を走るサポートランナーとして、池田市民9名、豊中・豊能・能勢から各3名、計18名が、一緒に池田小学校内を走る。
- ・パラリンピックの聖火フェスティバルについては、令和3年8月12日から16日までの5日間、全47都道府県で独自の 방법으로採火を行うこととなっており、その後、開催都市の東京に集火し、灯された火が東京2020パラリンピックの聖火となる。池田市においては、五月山児童文化センターや水月児童

文化センターで子どもたちに火を起こしていただき、その火をスポーツセンターの方に集める。その頃には、フランスの車いすラグビーの選手が来ているため、一緒に何かできればと検討している。火は最終的に堺市にある大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ）へ持ち込み、大阪府の火として集める。その後、8月20日には東京で全国の火を集火することとなっている。

（ホストタウンについて）

- ・ホストタウンは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に伴い、令和3年1月29日の時点で、全国で414件の登録がされている。池田市においては、平成29年12月にロシアと、平成31年2月にフランスと、ホストタウンの登録を行った。
- ・ホストタウンに関わる事業としては、ロシアの男子バレーボールチームを迎えてオリンピックの事前キャンプを行うにあたり、昨年度の7月から総合スポーツセンターの改修工事を行い、令和2年6月15日にリニューアルオープンした。しかし、工事期間中に、ロシアから、オリンピック会場と同様の床で練習をしたいという要望があり、相互協議の末、スポーツセンターに加え、箕面市にあるサントリーの体育館を借りるよう、調整をしている。フランスのウィルチェアラグビーについては、総合スポーツセンターで練習をする予定である。
- ・ロシアのバレーボールチームの事前キャンプの具体的な日程としては、いまのところ、7月16日に入国予定となっており、7月21日に選手村へ出発予定となっている。ロシア代表の競技日程は、7月24日が初戦となっている。フランスのウィルチェアラグビー、いわゆる車いすラグビーについては、パラリンピックの事前キャンプとして、8月の11日～18日で予定されている。パラリンピックの車いすラグビーの競技日程は、8月25日～29日となっている。
- ・今後の予定としては、ホストタウン実施のために、新型コロナウイルス感染対策として、内閣官房から出ているマニュアル作成の手引きに伴い、入国手続きやPCR検査方法・移動方法について、情報収集しながら池田市のマニュアルを作成し、受け入れ準備を進めていく。

（石橋新図書館について）

- ・令和4年4月に開設予定の（仮称）石橋地域拠点内に設けられます石橋新図書館について、この拠点施設は、市民活力部所管の多文化共生施設、子ども・健康部所管の地域子育て支援拠点、図書館が併設される複合施設で、様々な人々が交流できる地域の拠点として活用を図ることを目的としている。敷地面積

は687.32㎡、建物は主に鉄骨鉄筋コンクリート造で、延床面積には1865.81㎡となっている。

- ・施設のフロア表示は、当初、書庫のある部分を1階、施設の出入口・図書館カウンターに中2階の子育て支援拠点を含めて2階としていたが、書庫の部分を地下、施設の出入口・図書館カウンター部分を1階、地域子育て支援拠点を2階とした方が利用者にもわかりやすいのではないかとということで、イメージ図では4階建てになっているが、フロア表示については地下から5階でと考えている。
- ・施設の概要について、地下には、約8万3千冊収蔵が可能な書庫と、外部に30台の駐輪所が設置される。1階は出入口・ロビースペース・図書館カウンター・事務用スペース、2階は子育て支援施設と会議室、3階・4階は図書館の開架スペースを予定している。3階には一般書と児童書、4階には一般書を配架し、3階と4階あわせて約6万冊を予定している。加えて、3階には読み聞かせコーナー、4階にはパソコンコーナーが設置される。5階の市民活力部フロアには多文化共生施設のほかに、会議室・多目的スペース・コミュニティキッチンが設置される。多目的スペースは自習室としても利用いただくことができる。
- ・新図書館の特徴として、書架の資料は職員専用部分以外どこでも閲覧できるほか、感染症の対策と蔵書の適正管理を目的に、自動貸出機・自動返却機・セキュリティゲート等の設置も予定している。
- ・開館時間は、本館と同様に土曜日も含めて20時まで開館する予定となっている。
- ・併設される多文化共生施設や子育て支援施設と連携した行事や、館内でのミニコンサート等も検討していきたい。
- ・現在の工事の進捗状況としては基礎工事を施工中であり、3月末の工事進捗率は約15%となる見込みと聞いている。

(3) その他

<事務局から説明>

(小中学校空調機器整備事業について)

- ・体育館、いわゆる学校屋内運動場への空調機器整備について、事業実施に至る背景としては、近年の猛暑を考慮し、熱中症対策の教育的側面に加え、災害時の避難所の機能を担う防災的側面からも、屋内運動場に空調機器を設置し、より効果的な役割を果たすために実施する。
- ・本年度は具体的な実施に向けての設計を行い、令和2年度補正予算および令和3年度当初予算に工事实施に係る予算を計上した。計画としては、2か年です

すべての学校における屋内運動場に空調を整備する予定で、令和3年度に全小学校および義務教育学校の屋内運動場に空調機器を整備し、令和4年度に残る全中学校の屋内運動場に空調機器を整備する予定である。本事業は、教育的効果に加え防災面を考慮した取組であり、事業実施にあたっては、学校教育活動に配慮しながら適切に進めたい。

(大学連携事業(大教大サテライトキャンパスの開設)について)

- ・大阪教育大学が天王寺や柏原といった遠方で実施する教職大学院の講座をインターネット回線をつなぎ、池田市の会場(池田の駅前南会館を想定)でオンラインにてリアルタイムで受講できるよう、整備を進める。
- ・講座には現職の教員や指導主事が自主研修の場として参加し、池田市教職員の教育力向上につなげたい。また、将来的には、大阪教育大学が実施する市民向けの市民講座や中高校生対象のキャリア講座等の実施も視野に整備を進め、大学との連携を強化するというような方向性を考えている。

(4) 意見交換

<市長>

- ・事務局側よりご説明のあった内容に関して、何か質問があればご意見をいただきたい。それ以外の案件でも構わないので、忌憚のないご意見をいただきたい。

<河野委員>

- ・去年から今年へとコロナ禍の中で世界が動いた1年であったが、その中で、世の中が過去にないような変化を遂げた。子どもの教育においても、「給食の時もしゃべるな」という制限が生じるなど、元々当たり前だった日常生活が急変した。いまの子どもたちはそういう環境で育っていき、一律ではないものの、コロナのウイルス等の関係での制限等もあるような環境も続いていくのかと感じ、子どもたちがその影響をどれだけ受けるのか気になっている
- ・一方で、これを機に、これまで市でも進めてきたタブレットを使った教育などが一気に進んだ。子どもの貧困ともいわれる、家庭環境によって子どもたちの成長や教育にしわ寄せがくるという状況に対して、市を挙げてサポートする体制がしっかりできてきて、子どもに対し、どんな家庭環境にも関わらず学力を伸ばしてあげられる環境ができてきたのは、素晴らしいことではないかと思っている。
- ・池田の場合、できなかった行事もいくつかあるようだが、かなり勇気を出して実行された宿泊行事などは、子どもたちにとっていい思い出となったと思う。
- ・先の事で、お父さんたちも同様であるが、職業の関係が、今後、様変わりして

くる。それぞれ、AIやICTによって便利になる反面、AIにとって代わられるような職種もあって、これから子供たちがどんな夢を描いていくのかということも、やはり教育としてやらないといけないと思っている。

- ・少子高齢化になっている中、教育に関しては、図書館の充実などによって、子どもだけではなく一般市民にもサポート体制を用意してはどうかと思う。
- ・気象変動に伴い何が起こるかわからないので、体育館の整備もいいことだと思う。

<木村委員>

- ・私も、コロナ禍の影響は、昨年度に続き生活を大きく変えていると思う。教育現場では先生方が本当に最善を尽くしてくださっているということに感謝したいと思っているが、以前のような状態ではいけないので、時世にあった対応をとり、どんどん状況を把握していかなければならないかなど、改めて思う。経験を生かして、今年度は、活動、そして行事に接していただきたい。もちろん、よかったことも悪かったこともあると思うが、見直された点はたくさんあると思う。必要なこともあったことかと思う。そういったことも踏まえて、今後、本当に必要な活動・行事を実施していただけたらなあと思った。まだまだ課題も多いかと思うが、よろしくお願ひしたい。
- ・GIGAスクールについては、早く進んだことはいいことだと思っているが、タブレットは利点もたくさんあると思う。1人1台家でタブレットを持っていることによって学校に行けなかった子がお家で参加できるようになったという話も聞いているし、コロナに対してもいいことだと思うが、反対に、家にいることによって見えなくなっていた取り残されている部分が目の前にある中で、画面で子どもたちを見ることはできるが、子どもたちの意識がこちらに向いている・向いてないとか、リアルでないと感じられないことなどもあると思うので、そういった点でもサポートできるように、利点となるように、GIGAスクール構想を進めていただけたらと思う。
- ・子どもたちが学ぶ場所は本当に必要になっている。図書館に関しては、石橋の施設でも運用できるようになると聞いたが、これから建つ施設なので、コロナの影響がすぐに元に戻るといえることはないかと思っているが、それを踏まえて、どんどん、施設の運営管理・設備に対応できるようなものを用意してほしいと思う。もちろん、自由にできることが望ましいが、何か起こった時に対応できるに越したことはないと思うので、そういったことを踏まえた整備を進めていっていただけたらなあと思った。
- ・何があるかわからないので、体育館に避難することもあるだろうし、そういった面では、空調設備などを整えていくことは必要だと思う。

<小林委員>

- 一番目はコロナ禍における学校教育の推進ということに関して、確か、前回のこの会議で「必ずクラスターは起こってしまうだろうから、それを前提にやはり考えてほしい」ということを発言したと思うが、結果的に、クラスターの発生なしでここまでやっていただいたということは、やっぱり素晴らしかったと思う。次年度にどういう組み立てができるかは、その経験があるからこそで、やはりその成果だと思う。前回の会議の時も、「必ず起こってしまうから」という感じで発言したと思う。でも、それを食い止められたというのは、やっぱり素晴らしかったと思う。ぜひこの経験を次年度の教育に生かしていただきたい。
- テレビ報道もあったが、先生方は本当に現場で議論いただいて頑張っていたという風に思う。
- GIGAスクールも、私は理系だからこの会議の時に「どうぞやってくれ」ということで何回も発言し、「でも、現場の先生方はやっぱりコロナがあるんで、大変なんだよねえ」というようなお話も伺いながらだったが、これもある意味、コロナがきっかけになって進んだ、重要な教育の進展だと思う。
- 先ほどのお話にもあったが、不登校のお子さんがむしろこれによって参画しやすくなったという面があるようで、私もはじめは思っただけでなかったが、そのような話をどこかで聞き、「あ〜、なるほどな」と思った。やっぱり、やることで出てくるメリットもいろいろあると思う。
- ネット道德のようなものも教えていただいていると聞く。ネット道德は、将来にわたって我々が社会の中で生きていく上で欠かすことのできないことであるから、そういうこともやっていただいていると聞いて、本当にいいことだと思っている。ぜひこれもうまく発展させてほしい。特に、みなさんおっしゃっていることだが、どう使うかが肝心である。教育用のデジタルコンテンツみたいなものもどんどん出てきて、次の教科書選定委員会も、デジタルコンテンツは必ずいっぱい出てきて、その審査になるだろうというようなことあるという風になってきて、ある意味では、「コロナのおかげ」という言葉を使っただけではいけないですけれども、いいきっかけになって進んでいく。非常によくやっていただいたなあと思っている。
- 大学のサテライトキャンパスについても、非常にいい動きになってきていると思う。もちろん、生涯学習なども含めて、池田市内で身近に大学授業が受けられるようなきっかけができ始めていて、素晴らしいことだと思う。
- 生涯教育だけじゃなくて、中高生のキャリア講座にも非常に興味がある。教育委員の中でもよく議論になることだが、もっと実践教育をする必要がある。例

えば、国語であれば、いわゆる「文章を勉強しよう」とかそういう議論はよくされていて、そういうことを感じているのは私も同じだが、今の教育では、インターン制度もあるものの、いわゆる「どう社会人になっていくのか」っていうところに、お子さん方はなかなかピンと来てないと思う。違う方向から、例えば、教育大学の授業だとすると、「学校の先生になるということはどういう社会人になるんだ」、「どういう社会貢献ができるんだ」ということを学び、次はまた違う文系の大学や工学部の大学からそれぞれの授業など、中高生のためのキャリア講座で、もっと「社会人になる」、「社会貢献をする」ということについて、実践的な教育をここで補ってあげれば、非常に面白い、制度と申しますか、仕組みになっていくんではないかなと思う。これも本当に応援をしている。

<山岸委員>

- ・いま小林委員がおっしゃったように、やはり、子どもたちに社会の中で実践的に生きていける力をつけてあげるというのは、教育の重要な役割の一つだと思う。そのためには、やはり最終目標、すなわち、どういう仕事をして生きていくのか、稼いでいくのか、というところを、中学生くらいから学んでいく。キャリア教育ではないが、こういう仕事をするにはこういう勉強をして、こういう仕事ではこういう中身の仕事をするんですよ、っていうことを、いまでも中学生は職場体験でもやっているが、いろんな形で、今回一人一台タブレットでネットもつながっているんで、例えば、今までだったら会社を訪問して教えてもらわないといけなかったところを、ちょっとネットでつないで10分でも話きいてみようか、とか、いろんな方法が使えるようになってきているので、そういうことも含めて、いろんな職業の事を早いうちに知ってもらい、そのためにはどういう勉強をしていったらいいのか、と考えることが必要ではないか。やっぱり、人間はなにか目標があって、それに向かって「こうやろう」というのがないと、ただ「勉強しなさい」「学力上げなさい」と言うだけではなかなか勉強が続かないだろうと思うので、子どもたちにいろんなところを見てもらって、1つでも自分のやりたいようなことを早いうちに見つけてもらおうというのがいいかと思う。タブレットやWi-Fiというハード面がせっかく整備されたので、そういうことを利用していくということも重要なのかと思う。
- ・せっかくハード面の充実が早くにできたので、やっぱり今度はソフト面である。どうやって使っていくのかということ、先ほど出た教科書のデジタル化というのも当然近いところにあるため、その活用の仕方も含めて検討していないといけない。せっかくなので、あまり、固定観念というか、いま考えら

れているGIGAスクール構想という枠にとらわれず、もっと広い視野で、先ほど申し上げたように、何かの仕事に携わる人、職員などから話を聞くとか、いろいろな使い方が考えられると思うので、発想を柔軟にいろんな使い方をみなさんで意見を出してもらって考えていけばいいのかなと思う。

<富田市長>

- ・教育長はいかがか。

<田淵教育長>

- ・いま、ご意見をいろいろといただいた。やはり今年度はコロナが非常に大きかったなあと思っている。コロナの感染対策をしながらも学校教育も前に進めていこうというこの両面で、学校現場にもいろんな負担をかけたなあと思うし、学校現場に対しては、しっかり対応いただいて、頑張ってくれたなあと思っている。
- ・宿泊行事の実施についても、成人の集いの実施についても、市長から「ぜひやってください」という後押しをいただいたので、私どもも、学校現場でも、しっかり取り組むように進めたし、成人の集いもなんとか実施できて、そういう意味ではいい方向性をいただいたなあと感謝している。
- ・英語教育、ICT、幼児教育。来年度もこの三本柱を中心にやっていきたいが、特段、やはりICTについては、GIGAスクール構想がある。タブレットが整備された段階でこれは完了したわけだが、やはりご意見もいただいているように、今後これをどう活用していくか、どんな授業を作り上げていくのかについて、ようやくこれがスタート地点になっていっているのかなと思う。もうすでに学校によって様々に授業をしているが、事務局として、「どんな方法で活用して教育に取り入れていこうか」という方向性はしっかり示して、各学校現場をリードしないといけないと思っている。

<富田市長>

- ・コロナ禍の中で、教育現場が一生懸命頑張ってくれて、クラスターを起こさない状況を作ってくれたことに関しては、関係各所のみなさんが本当によくやってくくださったことだと思っている。教育長をはじめとするみなさんへ感謝を申し上げる。
- ・一方で、市民のみなさんへのワクチン接種が全部終わるまでには、国のスケジュールもどンドンずれているので、いまから一年は普通にかかってくると思っている。いうならば、あと1年か1年半くらいは普通にみておいてもいいかなあと思っている。その間、やはりコロナ禍においても教育は引き続き進めな

ければいけないと思っているので、みなさんある程度の経験やノウハウというのを蓄積してきたと思うが、ぜひ注力いただければなと思っている。

- これまで、コロナ禍の中でも、本市の教育に関しては、先ほどご指摘いただいたように、なるべく、各都市で行事ごとがストップしていっている中でも、大切な子どもたちにとっての教育の一環だということで、「行事は途切れずに進める」という方針でやってきた。大事にならずにここまでこれたというのは本当に良かったと思っているし、みなさんよく頑張ってくくださったなと思う。今後も、行事のあり方などに関する方針としては、子どもたちにとっては一生に一度の行事であるし、「池田市さんはよくやってくれてるんで」という親御さんからの声や、他市からは「うらやましい」という声も聞いているので、本市としてはこの方針で、今後もベストを尽くして感染対策をしながらも行事を進める、引き続き止めずに前に進めるということを、よろしく願いたい。
- 実は、私も市長に着任させていただいて、やはり教育に関して力を入れたいという思いでやってきた。まず着手しようと思っていたのは、いわゆる環境整備であった。まず、35人学級を早期に実現し、そのあとで、体育館の空調整備も、防災の観点になるが、教育の一環という形で取り組んでいる。
- 今後は、いま議論している内容の一つとして、財源創出がある。着任させていただいてからずっと、1次見直し・2次事業見直しという形で、それこそ政治的な戦いもありながら、すべての事業を見直してきた。でも、1年目の1次事業見直しでは、適正化で1億8千万くらい、2次事業見直しでは、単年度で1億8千万くらい事業の見直しをしている。教育や福祉について、財源の組み換えや事業の見直しを行ってきた。メリハリをつけて、「必要なところに充てていく」という思いで来た。
- 教育の部分では、特にいま、留守家庭児童会の4年生への拡充について、ご家庭からも比較的多く声があがっている。ただ、いま教育長とも議論をしているが、実は、物理的に、教室の確保が難しい。実際に留守家庭児童会を1学年増やすとなると、部屋を確保しないとイケない。部屋を設けるとなり、もし実際に建物を建てるとかということになると、それこそハードの整備という形ですごい費用がかさんでくる。忌憚なく何でも話をすると、教育長にまた力を借りて、物理的なハードルを乗り越えて、4年生までは何とか留守家庭児童会拡充できないかと、財源の創出も含めて検討しようとしている。
- もう一つ、これは夢のまた夢ではあるが、一般的保育の部分や低学年に対して、いわゆる給食の無償化というのを検討できたらなと思っている。これも非常に難度が高いので、調査の様子を見ながらしっかりと、と考えているが、やはり、GIGAスクール構想がコロナ禍で一気に進んで、いよいよ、ネット道徳

の重要性といったことや、本当に中身を詰めていく作業に入っていく。これから、GIGAスクール構想での一人一台タブレットにおける遠隔授業も含めて、また、コロナ禍で多様化したときにも速やかに対応できるような仕組みの検討、かつ中身を詰めていく作業である。今後デジタル教科書になっていくことも含めて、そこも今後次の課題として出てくるんだろうなと思っているので、そこはぜひお力を入れていただきたいと同時に、私の方でもそこはしっかり注力したい、しっかり念頭に置かせていただきたいと思っている。

- 具体的に、35人学級については、池田はちゃんと小学6年生まで進んでいて、留守家庭児童会を6年生までやっているのは箕面市しかない。たまたま大阪府下で留守家庭児童会6年生までやってるのが箕面市なので、横にある池田市へは、やっぱり、「なんでやってないねん」ってなる。財源の豊かさがそれぞれ違うという部分もあって、高学年の5・6年生は必要なかったとしても、4年生に関しては検討してもいいんじゃないかと考えている。なら、そこまで頑張ったとすると、比較的府下では頑張っている方だと思っているので、そういう環境も整備できたりとか、あと、やはり、給食費とかも一部、例えば多子世帯であったりとか低所得者世帯というのをピンポイントでサポートしていくって点でもいいかもしれないし、いわゆる教育のまちづくりの柱として、魅力ある教育環境というのか、子育て環境っていうことも含めて、保育や低学年に向けて無償化っていうのも一つ検討してもいいんじゃないかと思っている。ただ、非常に多くの財源が必要となり、年間で何億もかかってきて、一度スタートしてしまうとやめれないという状況になるので、恒常的につけられるかというのはこの1～2年で慎重に判断させていただきたいと思っている。
- 実は、給食の無償化については、教育長とも話をしているが、私はこれがトレンドになっていく可能性もゼロではないなと思っている。たまたま今回は、コロナで文科省が「35人学級を目標に」という方針になったが、本市は早い段階で取り組んでいて、たまたまコロナが始まる前だったというのはあるが、給食の無償化っていうのも、おそらく、全国の自治体では小さい町では行っていたりするが、一つの教育施策の日本のトレンドになっていくんじゃないかというのも、議論している。
- 魅力ある教育環境についても財源を確保しつつしっかり整えながら、いよいよ今から中身も整備し、詰めていけたらというのが、概ねの目標ではある。
- 先ほど、「実践教育」とか「生きる力」とかっていうのを言ってくさったが、いまちょうど教育長と部長と議論をしている中で、今回一部止まってはいるが、4月以降議論する予定で、大阪府のスマート戦略部が進めようとしている教育環境の1つとして、STEAM教育というのがあるようだ。エストニアが

非常に科学技術立国を目指す中で、理科学系のいわゆるICTとかを使った教育を提供しており、エストニアとLANでつないで、その一部を豊能でスタートするというのがある。そういうのも池田でもできないかというお話をしている。簡単に言うと、日本の大学生がプログラミングをやっているようなレベルであれば、エストニアの小学生たちは普通に何かおもちゃなどを使いながらできるという風に、全然レベルが違うということだ。

- 子どもたちが未来を生きる時代というのは、ICTなどもあり、いろんな課題がICTでもっと解決されているだろうし、仕事のやり方からライフスタイルまで全く違うような状況になっている。また、AIに関して、仕事がどういう形でAIに取られていくのか、新しいものが生まれていくのか、といったことが全く見えない中で、STEAM教育のような新しいものを池田で取り入れ、環境を整えていくことも重要じゃないかという議論をし始めている。
- 奇しくも、日本はかつて科学技術立国と言っていた国であるため、理科学系や情報系に強い環境を池田の教育において提供していくのは重要なんじゃないかと思っている。これについても教育長や部長と議論をしていて、難しい部分もいくつもある。いま、日本の教育というのは、いままでどおりのエスカレーター式で、いい高校に入って、いい大学に入って、就職して、それぞれに際して試験があって、というこの仕組みは変わらない。しかし、いまから子どもたちが生きていく時代というのは、いま議論させてもらったゲームチェンジができるような人物であったり、ゼロから始める発想ができたりといったことが必要となるが、そういうものを公教育にドバッと入れても、現実として受験はある。いまの公教育で新しいことをやっていくということは、現実としてあまりにも難しい。しかし、いま小学校とか中学校に通う若い子どもたちが生きていく時代は、明らかにもっと早く変化していく。このバランスをどうやって取ろうかというのが実は大きな課題で、いま議論している中で、頭の体操をし始めているのが、いまの公教育でできる先進事例や、現実的に導入できる新しいことへの取組はもちろん導入していく。
- 具体的には、先ほど小林委員がおっしゃったように、いわゆる大学連携事業などでサテライトをつくることによって、そこでのいわゆるキャリア講座などに個々の高校生などが普通に行ける環境を、公教育も向上させながら、市で持っていく必要があるのではないかと議論し始めている。もちろん、その一つが大学連携事業である。池田市の子どもたちとかが普通のいわゆる旧来型の公教育で、これは国が大きく変化しないと難しいだろうから、そういう環境でもちゃんと学びつつ、自分たちが新しい時代で生きていけるような、そこで必要な力を提供できるようなものをそれ以外でもう一つ市で提供できるように作っていくということができないのかという議論をし始めた。

- これは何に繋がるかというところ、この前から立命館の教授と議論をしているのだが、海外のシンガポールとかインドとかそういったところは、すでに国際的に活躍できる人材を輩出して、また、世界で活躍した人材を国に戻ってきて活動してもらおうというようなことを戦略的にやっているそうだ。グーグルのような大企業も大学を創って囲いこんでいっている。明らかに変化していついて、大学とかそういうのに関わらず、新しいことにチャレンジしたり何かを学びたいというような人たちが、老若男女問わず、ご年配の方も含めてたくさんいらっしゃるの、そういう人達が集まってやりたいことを学んだり始めたりできるような循環そのものを創っていくことが非常に重要だ、みたいなことを議論している。
- 池田には池田大学という一般社団法人や、普通の個人のNPOでやってるような人たちもいるし、生涯大学というようなことも池田でこれまでやってきた。これまでの取組もあるし、新しい子どもたちや、この関西圏を含めると新しい学生たちもたくさんいるので、いろんな魅力ある学びやいろんなことを一緒に学んだり、ワーキングしたりできるような空間そのものを伏見台でつくったりとか、もう一つの、規制にとらわれない、要は、日本の規制にかかっているようなものを一つ一つぶち破ろうと思ったらそれこそ時間がかかるので、もっと自由にできるようなものを創っていくことを議論しましょう、みたいなことを、いま、実は教育長と部長と真面目に話している。まだそれがどうなるのかはわからないが、その一つとして、大学連携事業は、これはもともとまちづくりのシンボルとして将来池田の大学を誘致・設立したいという想いの中で、教育長や部長さん、みなさんが頑張ってくれたということで、こういう一つの足掛かりができたのだが、そこから派生して、生涯学習やキャリア教育の提供ができて、子どもたちの池田の教育環境が将来的に向上していくというのはすごくいいことだなあと考えており、こういうことを両輪で進めていきたいなというざっくりとした大きな方向性を考えている。
- 現実的にやらなくちゃいけない子どもたちの教育環境についてもコツコツやるが、中身の事とか、新しいいろんなことを学べるような教育を市として提供できるような環境を整備していきたいと思っているので、ぜひ、その点で、みなさま方からご意見とかアドバイスとかいただけたらなと思っている。まだ道半ばで何かが見えているわけではないが、方向性としてはそういう議論をし始めているというのが現状である。
- 補足するならば、大教大附属の池田高校や中学とは、附属高校や小学校でなされる先進的な取組を、連携して、比較的早い段階で、公立の学校でもできるというような取組も考えてみたいなという話もさせていただいているので、現実的な公教育の向上も含めて考えているということをまずご報告し、またみ

なさんにご助言とかアドバイスもいただけたらと思っている。

<小林委員>

- やはり先ほどのお話と一緒に、実践的な教育をいまの定型的な教育にプラスでどう入れていくかという検討は現実的だと思うし、山岸先生もおっしゃっていたGIGAスクールの活用や大学連携の活用といったところから、いまのなかなか動かしにくい制度にプラスでこういうことを入れていくということは、非常に重要だと思う。
- そこにもう一つ付け加えるならば、ご家庭の経済的な理由でなかなか学べないというような人、それは給食の無償化なんかも関わってくるが、少子化のいま、やる気のあるお子さんを引き上げないと日本の社会が持たないと思う。どういう形がいいのかわからないが、経済的な理由でそういうところに参加できないような方を救ってあげることが、少子化だからこそ重要なんじゃないかという風を感じている。
- またもう一点は、ICTとかAIとかをいま学校の先生に「プラスで教えろ」と言っても、やはり難しく、我々であってもそれはそういう状態になる。例えば技術屋について言うと、私は化学屋なので「AIを使え」とか「ICTを使え」と言われても専門ではなく、同じ理系でも違う。だから、そこはいわゆる補助者、技術について先生のサポートをする人、もちろん先生の代わりに教える人でもいいが、そのような人をどうやって見つけていくか。具体的なアイデアはないが、そういう視点で、「やれ」と言うだけではなくて、無理なところは補助をすればそれが進むのかということも含めて、翻訳者というか補助者というか、その確保というのが大きなポイントになるんじゃないかなと思っている。

<木村委員>

- 「生きる力をつける」ということに関して、いろんな取り組みで新しいことを進めていかれるのもとってもいいことだと思うが、人と人とのコミュニケーションをとれることを第一として、忘れないようにしたいと思う。いろんな教育の中でも、これは市のためになる。人と人とのコミュニケーションをもつことが生きる力になるんだということを忘れないでいただきたいなと思った。
- いまはなんでもエスカレーター式になっていて、利点もある一方、それがないと次の反応がわからないというお子さんが増えている。エスカレーター式に段階があるが、それが違ったときに、次の対応を自分で考えることができるようになることが大事だ。この段階を経てここまでたどり着かないとできないという中で、そうじゃなかったときに、違うことをどこから引っ張ってきた

どり着くことができるようになるのか、自分でものを考える力をつけることができるように、生きる力を付けていただきたい。コミュニケーションを忘れないようにしていただきたい。

<河野委員>

- ・留守家庭児童会について、市長から聞く話だと、4年生が入ると部屋を一つ用意する必要があって予算も結構大変だということで、1つの学年でどのくらい要望があるのかわからない。私は結構おおざっぱなので、3年生に組み込んで、人数が少なかったら3年と4年一緒でもいいんじゃないかと思うが。

<富田市長>

- ・規則など、いろいろある。

<田淵教育長>

- ・細かいことを言えばいろいろあるが、いま1年生から3年生までで留守家庭児童会をやっている中で、4年生が加わるということ自体はOKだが、どういう運営をしていくかを考えていけないといけない。

<山岸委員>

- ・給食の無料化について先ほど触れられていたが、私は個人的には無償化しなくてもいいと思っている。確かに、政策や公約とすれば市民たちが喜ぶというのはあるだろうが、いまでも保護が必要な収入が少ない世帯については免除もしてるし、修学旅行代なり学用品代なり、本当に経済的にしんどいところにはそういう配慮ができていますので、実際払うことができる人までを免除する必要があるのかと思う。それよりはむしろ先ほど小林委員がおっしゃっていたみたいに、経済的な面で教育を受けたいけれど受けられないという方のところに回すべきなんじゃないかと個人的には思っている。

<富田市長>

- ・おっしゃるとおりである。実は、昨日ちょうど教育長に、必要あるのか？という話をされたところで、ある意味、政治的なところもあれば、おっしゃるとおりで、経済的な困窮で本当に学びたいのに学べないような方にアプローチしていくというのはすごく大事なことだ。ただ、いまそのご意見も受けて、教えてほしいが、例えば、経済的な困窮があって学びたいものを学べない方にアプローチするとして、具体的には、例えば、所得に応じた塾代補助みたいなことをおっしゃっているのか。例えば、生活困窮、多子世帯とかで親御さんになら

れるようなご家庭で、「一人だったらこれくらい塾習わせたいけど、二人とか三人だったらできないからどうしよう」や「子どもに教育の差をつけたくない」といった思いがある中で、いままで、子どもたちに必要な公教育だったら、周りは普通に塾に行ったり習い事を習ったりと公教育以外でも多様な学びを手に行っているような子どもたちは、すごい子ども間での差を感じてたりすると思うので、そういうところの補助のようなものなのか。施策といったものがまだあまりイメージができてなくて、その点、ご意見やアドバイスをいただきたい。

<山岸委員>

- ・現状では“はばたき塾”を実施しており、無償で塾に近いような学習を受ける機会はある程度あると思うが、それは非常に有意義なことだと思う。さらに言うと、いま市長がおっしゃったように塾代を一部負担するところになるが、そこを塾代と言ってしまうとやはりあれなので、結局、奨学金などで、それを貸与にするのか、あげるのか、いろいろな形があると思うが、そのような支援があるだろう。
- ・小中学校のうちは大丈夫であっても、例えば、高校に行ったときに授業料などを払えるんだらうかっていう不安もあるだろうから、そういった方のために、「高校行った時も池田市として奨学金がありますよ」、「安心して通えますよ」と、高校も無償化になっているのでそんなに心配はないかもしれませんが、大学まで見据えて、池田市としてそういう資源を検討するということもありなのかなと思っていた。

<小林委員>

- ・問題点はわかるし課題はわかるが、具体的にじゃあどうするんだっていうのはなかなか難しいところがある。
- ・現状として、小中学生はまだある程度カバーできているんじゃないか。池田の場合は、割とそういう問題が少ない。ただ、やっぱり、地域に行けば、本当に悲しい話になるが、お昼ご飯を食べられないために、お昼休みにはどこかに隠れてしまうような子がいる高校だって現実にはある。あまりにも問題が多岐にわたっているので、一言ではなかなか言えないが、少なくとも池田の小中学生は、本当に大きな問題はないのではないかと思う。
- ・むしろ、その後になってきたときに、池田としてできることがどれだけあるんだらうと考える。例えば、昨今言われているように、ぎりぎり頑張っている大学生が、アルバイトがなくなって学校を辞めざるを得ないという報道も聞く。そうなったときに本当に池田として膨大なお金を用意して奨学金

を用意できるかというのと、やっぱり難しいと思うんで、具体性を持たせるのは本当に難しいことだ。

<富田市長>

- 大学無償化の話の一部させていただいて、日本の政策でもこれから議論の対象になってくると思うが、お住まいの方はみなさん、大阪府下でも生活水準は比較的にいい方だと思っているので、「じゃあ給食費を」ってなったとしても、それよりかはやはり高校・大学等も含めた奨学金とかそういうのにフォーカスを当てていって、池田に住まわれる方にもっと生涯にわたってすごくいい教育環境を整備していくっていうのも1つかと思う。ぜひちょっと参考にさせていただきたい。
- まさにそこが議論になっており、給食費がタダになる・ならないだったらそれはなった方がうれしいとなるが、教育的観点や、公金を入れるにあたっての価値が本当にあるのかというのは、また議論の対象にさせていただけたらなと思っている。またいろいろとアドバイスをいただきたい。
- 時間になったので、令和2年度第2回池田市総合教育会議を終了する。お忙しい中ご出席賜り、感謝申し上げます。

(終了)